

2

地方拠点都市地域の整備の方針に関する 事項

1. 地方拠点都市地域の現況と課題

1) 自然状況

当地域は広島県の東端に位置し、北は中国山地に連なり、南は瀬戸内海に面している。

気候は温暖で降水量は少なく、年平均気温は15.5℃、年間平均降水量は約1,150mmである。

地域を縦貫し多くの支流を有する1級河川芦田川をはじめ、本郷川、藤井川等があり、その流域にまとまった平野がみられ、その他は山間部、島しょ部である。

2) 社会経済状況

①人口・人口動態

平成17年の国勢調査による当地域の人口は654,500人で、県内人口の約22.8%を占めているが、過去10年間では1.4%減少しており、中心都市の福山市を除き、その傾向が顕著に現れている。

人口の減少は主に社会減によるもので、年齢別人口動態を見ると特に10代後半から20代前半の年齢層で減少幅が大きいことから、高等教育年齢あるいは生産年齢に達した若年層の人口流出が地域全体の社会減の主要因となっていることが分かる。

こうした社会減を増加に転じていくためには、高等教育年齢あるいは生産年齢に達した若年層に対し、特色ある教育環境や多様な就業機会等を提供するとともに、地域の特性を活かした魅力溢れる都市環境を創造し、定住人口の増加や地域間交流の促進を図ることが重要と考えられる。

一方、高齢者の人口比率は22.2%と全国平均(20.1%)を上回る水準で推移しており、団塊の世代が退職期を迎える今後は、さらに急速に高齢化が進行することが見込まれている。

このため、介護、医療、福祉などの社会保障サービスを充実させるとともに、高齢者の自立支援につながる快適で暮らしやすい社会環境を構築していくことが重要な課題となっている。

人口の推移

市町名	人口(人)			人口増減率(%)	面積(km ²)	
	平成7年	平成12年	平成17年	平成7~17年	平成18年	
福山市	374,517	378,789	418,509	1.2	518.1	
	旧内海町	3,706				3,431
	旧沼隈町	13,238				12,632
	旧新市町	22,353				21,695
	旧神辺町	39,977	40,361			40,578
尾道市	93,756	92,586	114,486	△ 6.0	284.8	
	旧御調町	8,207				8,111
	旧向島町	17,616				16,710
	旧因島市	30,300				28,187
	旧瀬戸田町	10,011	9,606			9,062
府中市	43,689	41,271	45,188	△10.3	195.7	
	旧上下町	6,667				6,426
合計	664,037	659,805	654,500	△ 1.4	998.6	

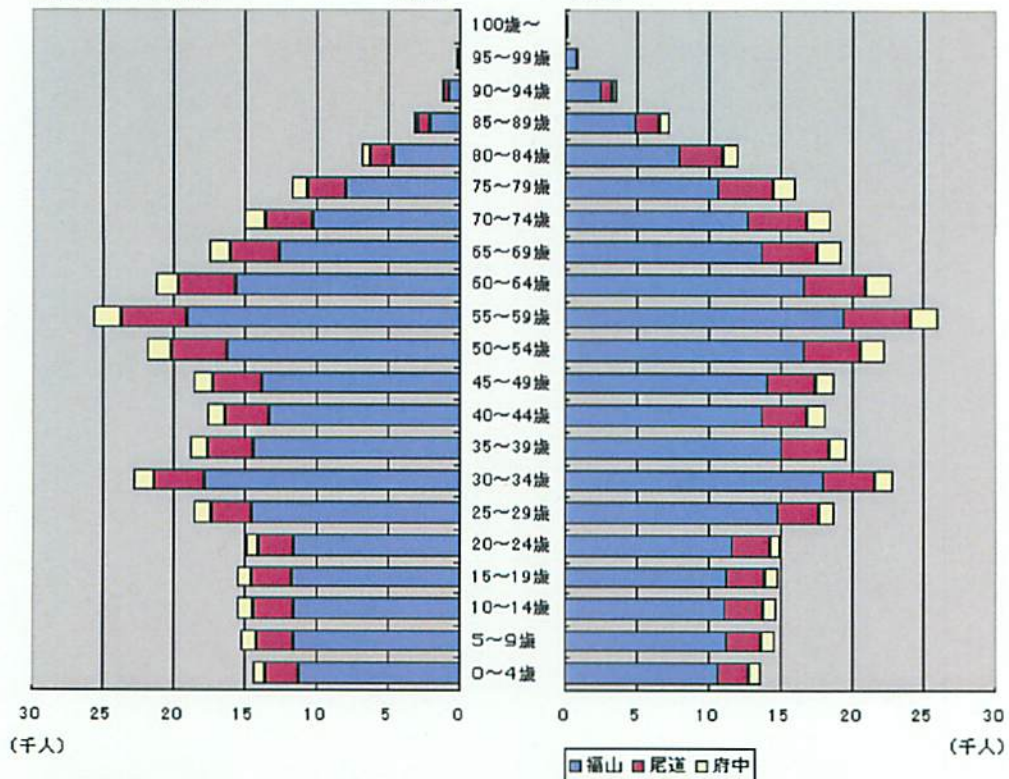
人口:国勢調査報告

面積:全国都道府県市区町村別面積調(平成18年)

年齢別人口構成

(男)

(女)



②土地利用

当地域の面積は平成18年度末で998.6k㎡で県面積の11.8%を占めている。

土地利用状況は、農用地92.53k㎡(9.27%)、森林・原野520.11k㎡(52.08%)、宅地103.67k㎡(10.38%)、その他282.32k㎡(28.27%)となっている。

都市計画区域及び市街化区域の面積はそれぞれ547.1k㎡、128.7k㎡であり、地域全体に占める割合は54.8%、12.9%となっている。

③都市機能

都市機能のうち、広域的な生活・経済・行政サービス機能の大半は福山市に集積し、尾道市、府中市では地域の生活に密着した行政サービスや商業・業務サービス機能が集積している。

中心都市の福山市では、現在、福山駅周辺部の都市機能の更新に取り組んでおり、駅前広場整備等による交通環境の改善と市街地再開発事業による高次都市機能の集積が図られている。

教育・文化機能としては、福山大学や福山平成大学、尾道大学等に代表される高等教育機関をはじめ、各地域に個性的な美術館や博物館、芸術文化ホールなどの教養・文化施設を有している。

一方、これらの機能集積を活かすネットワークの整備が継続的な課題として残されており、引き続き、地域内外を結ぶ広域道路網の整備促進を図る必要がある。

④産業構造

当地域は、県庁所在地の広島地域に次ぐ産業集積地域であり、平成17年の国勢調査による就業者数は県内就業人口の25.2%に当たる352,551人となっている。

産業別就業人口構成による内訳では、第一次産業が3.4%、第二次産業が33.7%、第三次産業は61.3%で、県内平均(各4.3%、27.2%、66.9%)に比べ第二次産業就業者数の占める割合が高い。

第一次産業就業者数は約10,700人で大幅な減少傾向にあり、今後、農山漁村の基盤整備や後継者の確保とともに、農産物等の加工などによる付加価値を高める1.5次産業化の促進や、観光農園などの第三次産業化への展開なども必要である。

第二次産業は、当地域の基幹産業である鉄鋼、造船、機械をはじめ、木工・繊維などの高い技術力を持つ個性的な地場産業が集積しており、製造業を中心に地域産業の発展を支えている。

反面、精密機械などの先端産業の集積は低く、また、これらの産業活動を支援するデザイン業や情報サービス業などの第三次産業の集積が低いという構造的な課題があり、産業構造の高度化、高付加価値化を促進し、バランスの取れた産業構造を構築する必要がある。

平成18年における工業出荷額は2兆4,193億円で、県内シェアの28.2%を占めており、過去10年間の伸び率は13%と順調に伸びている。(広島県:9.2%、全国:0.5%)

第三次産業は、平成16年の商品販売額が、卸・小売合わせて1兆9,140億円(県内シェア16.0%)で、その内訳は、卸売業が1兆2,050億円(同13.5%)、小売業が7,093億円(同23.0%)となっている。

⑤市別概況

<福山市>

地域の中心都市である福山市は、県内第2位の人口を有する県東部の中核的都市である。

産業面では、事業所数、金融機関数及び卸小売販売額がいずれも県内の1割強、製造品出荷額等でも県内の2割近いシェアを占めるなど、県内第2の産業集積を備えている。

行政や文化の面では、江戸時代、城下町として栄え、備後地方の中心地であった。現在も国、県の主要な出先機関や広域的な公共施設が数多くあり、広島市に次ぐ県東部の広域的な経済社会生活圏の中心的役割を担っている。

市北部地域は、高度な技術力を持つ地場の繊維産業が集積しているほか、近年の工業団地開発により、先端産業をはじめとする企業立地も増えており、隣接する府中市も含め北部地域の地場産業の中心的な役割を担っている。神辺地域は数少ない人口増加地区で、定住環境も向上しつつあり、地域における職住近接型定住圏として、また岡山県側との広域的な交流地域としての役割を担っている。

市南部地域には、国立公園に指定されている地区や、県自然海浜保全地区があり、豊かな自然環境を有している。また、沼隈半島の沿岸部は造船を中心とする第二次産業を主体としているが、近年は優れた自然と多様な文化、歴史などの資源を活かした魅力的な観光スポットとしても注目を浴びている。

内海地域は、沼隈半島の対岸にあり、内海大橋により結ばれている。国立公園に指定されている馬場崎地区をはじめ、3カ所の県自然海浜保全地区があり、豊かな自然環境を有する。就業人口は第二次産業の比率が高いものの、ほとんどが島外への就業であり、島内産業では漁業を主体としている。

<尾道市>

尾道市は、古くから商都として栄えてきたこともあり、島しょ部から内陸部に及ぶ商圈を有し、卸売業や小売業等の第三次産業を主体としている。また、近年においては伝統的な造船、食品加工産業に加え、高度な部品・材料産業により当地域西部における経済交流の中心的役割を担っている。

観光・文化振興についても、旧尾道市街地の歴史的文化施設、瀬戸内海地域の地域観光資源を多数有し、多くの観光客の交流の場となっている。尾道糸崎港尾道地区として海路に加え、山陽自動車道、瀬戸内しまなみ海道、中国横断自動車道尾道松江線で構成する瀬戸内十字路の拠点であり、様々な交流施設を整備して、新たな芸術・文化の創造や産業の創出につながる交流拠点として期待される。

また、福祉の面において、先進的な福祉施設の導入等を行うなど、地域の福祉環境の向上を牽引する役割も担っている。

<府中市>

府中市は、当地域における内陸部での中心都市である。産業面では金属機械工業のほか、木工・繊維を中心とする優れた地場産業の集積が特色であり、多様な業種構成と地元企業主導型の産業活動などで全国的にもユニークな内陸工業地区を形成している。

また、内陸部における行政サービスや商業機能を有しており、当地域北部における経済社会生活の中心的役割を担っている。

2. 地方拠点都市地域の整備の基本方針

1) 地方拠点都市地域の性格及び機能

当地域は、山陽自動車道と瀬戸内しまなみ海道、中国横断自動車道尾道松江線の整備に加え、広島空港や港湾施設の整備により、陸・海・空を結ぶ広域高速交通網の拠点、「瀬戸内の十字路」となる。

既に一定の人口・産業などの集積もあり、地域における公共施設の整備状況などからみて、県西部の広島中枢都市圏と連携し、均衡のとれた県土を形成する諸条件を備えている。

産業面では、基礎素材型産業の集積に加え、高度な技術力を誇る木工、繊維、履き物等の地場産業を有すると同時に、吉備高原地域と広島中央の両テクノポリスと交流や連携ができる距離にあり、地域自体が新たな産業を生み育てる資質を備えている。

歴史・文化・自然環境などの面でも、尾道市の干光寺山周辺をはじめ、福山市の鞆の浦や福山城などの資源を有し、島しょ部は、瀬戸内の温暖な気候と多島美により、世界的にみても優れた観光名所がある。

こうした地域ポテンシャルや地域特性を最大限に活用し、福山市を中心に放射状に広がる交通体系を基軸として、構成自治体が適切に機能分担しながら、都市的なにぎわいをはじめとする多様な都市機能を集積し、地域産業特性を活かして高付加価値で就業の魅力に富んだ産業の育成・集積、広域的物流や交流の拠点形成、生活にゆとりと豊かさをもたらす高水準の公共サービスの提供等を重点的に図ることにより、新しい産業と文化が創造される魅力ある生活空間を創出していく。

また、広域的な交通基盤や電気通信等の情報基盤を整備し、当地域の整備が県東部地域全体や、隣接する県中央地域、岡山県西部地域などの周辺地域に適切な波及効果をもたらすよう努め、当地域の農山漁村地域を食料供給基地としてだけでなく、観光農業などの新たなレクリエーション空間、豊かな自然環境を活かした居住空間として、環境保全に配慮しながら都市地域と一体的な整備を目指す。都市部では、クリーンエネルギーの利用や公共交通システムの改善等、環境負荷の低い都市活動を推進するとともに、公園や河川等の自然生態系の保全に配慮した都市環境の形成を目指す。

瀬戸内十字路の交流拠点としてさらに広域的に見ると、新たに地方拠点都市に指定された井笠地区とは、通勤、通学など一体の都市圏として発展してきた地域であり、今後は両拠点地区が一層の連携を図りながら、公共施設の機能分担等それぞれの個性を活かしつつ都市基盤等の整備を推進していく。

また、十字の一方である南北については、瀬戸内しまなみ海道を通じて愛媛県をはじめとする四国地方、将来的には中国横断自動車道尾道松江線により山陰地方との交流を促進していくことにより、さらに広がりを持った魅力ある拠点地区の形成を図る。

これにより、瀬戸内中央部における地方定住や広域交流拠点にふさわしい魅力ある地域を形成する。

2) 計画の目標期間及び目標人口

平成20年度から平成29年度とし、地域の目標人口は平成29年度で62万人とする。

3) 整備の基本的な方向

①地域課題とポテンシャル

地域課題とポテンシャルを以下のようにまとめる。

■地域課題

<人口課題への対応>

魅力ある地域づくりによる若年層を中心とした人口社会減への対処

高齢化の進行に対応できる施設整備や人材育成

<都市機能課題への対応>

高等教育をはじめ、不足している高次都市機能の集積強化

情報や通信などの交流基盤の集積促進

活気とにぎわいに満ちた都市的魅力づくり

沿岸部、内陸部の中心となる尾道市、府中市の都市機能集積の強化

<産業構造課題への対応>

情報・精密機械等の先端産業の集積強化

デザイン業等のソフト産業の集積強化

地域内外の活発な流動を促す道路等の基盤整備

受け皿整備による企業の誘致と域外流出への対処

瀬戸内の十字路を最大限に活かす流通施設の整備

■広域ポテンシャル

高速交通網整備による瀬戸内の十字路の形成

県東部の中核となり得る都市基盤施設の整備状況

■地域ポテンシャル

鉄鋼・造船産業を基幹とする高度な生産能力の集積

高い技術力を持つ地場産業の集積

瀬戸内の恵みを受ける豊かな自然環境や居住環境

先進的な福祉や交流などによる個性あふれるまちづくり

尾道や鞆の浦等の多様な歴史・文化・観光資源

②地域整備の基本方針

地域が抱える課題に対し、地域全体の発展の視点からポテンシャルを最大限に活かした地域整備を行う。これを次の3つの地域整備の目標としてまとめる。

地域整備の目標

①人、もの、情報が集まる高速交通網の結節点としての立地特性を活かした、

新しい瀬戸内十字路の交流拠点づくり

②高度な技術集積と新たな産業を生み育てる基盤を活かした、

立地の魅力に富む産業・業務環境づくり

③豊かな自然環境と都市的利便性を活かした、

若者が求める定住環境と都市的魅力づくり

これらの目標の実現に向けて、次のような基本方針を考える。

I. 魅力ある地域形成のための都市機能整備

各市の特性を活かした多様な都市機能を集積し、地域としての魅力アップを図ることで若年層を中心とする人口の社会減を止め、定住の促進を図る。具体的には次の方策を行う。

1) 中心都市福山の高次都市機能強化による拠点性の向上

福山市の中心市街地である福山駅前地区や内港周辺地区、御幸地区において、文化、情報・通信、交流、高等教育、医療等、高次都市機能の集積を強化して、当地域の中心都市としての機能を拡大する。また、瀬戸内中央部の核としての都市的にぎわいと高い文化性、次代へ向けた産業を生み出す就労の魅力にあふれた地域形成を目指し、若年層の定住促進と産業・経済活動を活性化していく。

2) 副核の役割強化による地域内でのバランスの取れた都市機能整備

福山市の地域中核機能と都市機能を分担・補完し、周辺地域の経済、社会、生活を支援する地区として、尾道市、府中市などの市街地で商業・業務機能を集積強化し、各々が地域西部、北部における副核の役割を担い、地域全体でのバランスの取れた都市機能整備を推進する。

3) 環境負荷の低い、自然と共生する都市環境整備

各市の機能集積地区では、クリーンエネルギー利用促進や公共交通機関の充実、都市内自然環境の保全等により、環境負荷が低く生態系に配慮した地区整備を推進し、快適でかつ地球にやさしい都市環境を形成していく。

Ⅱ. 定住促進のための充実した生活環境整備

道路、公園、下水道などの生活関連基盤の整備を図るとともに、医療、教育、防犯などの機能を充実・強化し、地域の自然環境や優れた福祉環境等を活かして多様で充実した生活環境を提供し、様々な居住ニーズに応えていく。具体的には次の方策を行う。

1) 環境に配慮した定住環境の創造

快適性や安全性だけでなく、自然エネルギー、太陽光発電の活用等環境に配慮した定住環境を提供する。

2) 都市機能利用の利便性を活かした定住環境の創造

各都市の中心市街地で高次都市機能やアクセス性を活かした利便性の高い定住環境を提供する。

3) 地域ケアシステムを活かした定住環境の創造

保健、医療、福祉の連携した地域ケアシステムを活用した定住環境を提供する。

Ⅲ. 高度化・活性化を支える新たな産業関連機能整備

産業施設の受け皿を整備し、先端産業の積極的な誘致や研究・開発機能の充実、高付加価値を生み出す産業構造の形成を推進し、若年層に魅力ある就労の場を創出していく。また、地域内外の産業交流を支援する機能を整備し、産業の活性化・高度化を促す。具体的には次の方策を行う。

1) 先端産業、研究・開発機能の集積強化による高付加価値産業の育成

次代の産業を先導する情報・精密機器やバイオテクノロジー等の先端産業を導入して、高付加価値型産業構造の形成を目指す。

2) ソフト産業の集積強化による産業支援能力の向上

福山市を中心として、情報サービスやデザイン等のソフト産業の集積を推進し、地域産業活動の基盤を強化する。

3) 交流機能強化による産業の活発化、多様化

異業種交流など地域内外の交流活性化による新産業の創出や、地域からの情報発信力の強化による市場の拡大を図るため、産業交流施設等を積極的に整備する。

4) 新たな産業用地の整備

企業の域外流出を食い止めるとともに新たな企業を誘致するため、産業の受け皿となる用地の整備等を検討する。

5) 流通拠点整備による物流能力の向上

大規模な物流発生地域、また瀬戸内の十字路として、それにふさわしい流通施設を整備し、物流能力の向上を図る。

IV. 地域活動を支える基盤施設の整備

産業・経済・生活などの地域活動を支える基盤施設の整備を推進する。具体的には次の方策を行う。

1) 都市基盤施設の充実による経済産業活動の活性化促進、生活環境の向上

道路、公園、下水道等の都市基盤施設の整備・充実により、地域内の経済産業活動の活性化を促進するとともに便利で快適な生活環境を確保する。

2) 情報通信基盤整備による地域内外とのリアルタイムな交流

光ファイバー網やデジタル通信などによる地域内の高度情報通信ネットワークの整備を推進し、産業・生活・文化など多岐にわたる地域の主体的な情報運営の向上を図る。

V. 地域の発展と連携を強化する

人材育成、地域間交流、教養文化活動等の活動の促進

経済発展と定住を促進するソフト面の育成を図るため、次代を支える人材育成や生涯学習、地域間交流施設等の整備、教養文化活動等の充実に努める。具体的には次の方策を行う。

1) 高等教育機能の強化

地域に不足している高等教育機能の向上のため、既存大学の充実・強化を図り、人材育成とともに地域産業との連携による研究開発の基盤とする。

2) 生涯学習環境の充実

豊かな定住を支えるために、各市において生涯学習のための施設整備や学習情報提供等のソフト事業を推進する。

3) 産業人材＝エキスパート育成の充実

地域産業と密接に連携した専修・専門学校の整備充実を図る。また、社会人を対象とした研修施設等を整備し、エキスパートの育成を図る。

4) 地域間交流・国際交流環境の整備

地域内外での交流を促進する施設の整備や、イベントを実施する。また、海外、特にアジア諸国との人的交流、技術交流を通じて、産業技術の交換や途上国の支援など国際的広がりのある環境を形成する。

5) 教養文化活動等の充実

学術・文化・教養施設の整備とともに、それらの活用を促進するため、高度情報通信基盤を活用した施設の利用案内システム等の地域内の文化情報システムを構築し、教養文化活動を支援する。

歴史・文化的遺産を保存整備し、地域の歴史や文化環境を高めていく。

さらに、デザインや地域の産業技術にちなんだイベントの開催、歴史・文化等についてのセミナーや教養講座の実施など、地域文化向上に関わる催しを行う。

③市別整備の方針

<福山市>

中心都市として、情報通信、交流、高等教育、医療、文化等の高次都市機能の集積を強化し、都市的にぎわいと高い文化性、魅力ある就労の場を提供し、地域の産業・経済活動の活性化を牽引する。

先端産業やソフト産業の集積を図るとともに、研究・開発機能の充実や異業種交流等の活動を推進し、高付加価値型産業構造の形成や新産業の創出を図る。

高等教育機能や生涯学習環境を充実強化し、産業をはじめとする様々な人材育成に努めるとともに、地域間交流や国際交流を推進する。

また、高度情報通信基盤を活用した教養文化活動等の支援を行なう。

<尾道市>

「瀬戸内の十字路」としての高速交通拠点性を活かし、生産・流通機能の整備を図るとともに、尾道駅前周辺地区における商業・業務機能等の集積と尾道の誇る歴史・文化・景観美などの地域資源を活用し、地域の副核として、活気とにぎわいに満ちた魅力ある広域交流環境の創出を図る。

さらに、リゾート交流や文化芸術面での全国への情報発信機能を強化し、「活力あふれ感性息づく芸術文化のまち 尾道」の実現を目指す。

<府中市>

日本の伝統的産業である木製家具や被服縫製品を中心とした生活産業と近代化されたハイレベルな金属機械工業等の優れた地場産業が集積した地域特性を活かし、「未来を拓くものづくり都市」を目指す。

また、内陸部における核都市として、周辺地域の経済、社会、生活を支援する都市機能の集積を図る。

現況課題

人口課題への対応

- ・魅力ある地域づくりによる若年層を中心とした人口社会減への対応
- ・高齢化の進行に対応できる施設整備や人材育成

都市機能課題への対応

- ・高等教育をはじめ、不足している高次都市機能の集積強化
- ・情報や通信などの交流基盤の集積促進
- ・活気にぎわいに満ちた都市的魅力づくり
- ・沿岸部、内陸部の中心となる尾道市、府中市の都市機能集積の強化

産業構造課題への対応

- ・情報・精密機械等の先端産業の集積強化
- ・デザイン業等のソフト産業の集積強化
- ・地域内外の活発な流動を促す道路等の基盤整備
- ・受け皿整備による企業の誘致と域外流出への対応
- ・瀬戸内の十字路を最大限に活かす流通施設の整備

課題への対応

地域ポテンシャル

広域ポテンシャル

- ・高速交通網整備による瀬戸内の十字路の形成
- ・県東部の中核となり得る都市基盤施設の整備状況

地域ポテンシャル

- ・鉄鋼・造船産業を基幹とする高度な生産能力の集積
- ・高い技術力を持つ地場産業の集積
- ・瀬戸内の恵みを受ける豊かな自然環境や居住環境
- ・先進的な福祉や交流などによる個性あふれるまちづくり
- ・尾道や鞆の浦等の多様な歴史・文化・観光資源

ポテンシャルの活用・応用

地域整備の目標

- ① 新しい瀬戸内十字路の交流拠点づくり
- ② 立地の魅力に富む産業・業務環境づくり
- ③ 若者が求める定住環境と都市的魅力づくり

整備基本方針

魅力ある地域形成のための都市機能整備

- ① 中心都市福山の高次都市機能強化による拠点性の向上
- ② 副核の役割強化による地域内でのバランスの取れた都市機能整備
- ③ 環境負荷の低い、自然と共生する都市環境整備

定住促進のための充実した生活環境整備

- ① 環境に配慮した定住環境の創造
- ② 都市機能利用の利便性を活かした定住環境の創造
- ③ 地域ケアシステムを活かした定住環境の創造

高度化・活性化を支える新たな産業関連機能整備

- ① 先端産業、研究・開発機能の集積強化による高付加価値産業の育成
- ② ソフト産業の集積強化による産業支援能力の向上
- ③ 交流機能強化による産業の活発化、多様化
- ④ 新たな産業用地の整備
- ⑤ 流通拠点整備による物流能力の向上

地域活動を支える基盤施設の整備

- ① 基盤施設の充実による地域内活動の活性化促進、快適性向上
- ② 情報通信基盤整備による地域内外とのリアルタイムな交流

地域の発展と連携を強化する人材育成、地域間交流、教養文化活動等の活動の促進

- ① 高等教育機能の強化
- ② 生涯学習環境の充実
- ③ 産業人材＝エキスパート育成の充実
- ④ 地域間交流・国際交流環境の整備
- ⑤ 教養文化活動等の充実